

# 出張報告書

令和6年10月22日

市議会議長 烏野 隆生 様

会 派 名 きしわだ未来

代表者氏名 反甫 旭

下記のとおり報告します。

## 記

- 1 目 的 全国市議会議長会研究フォーラム出席のため
- 2 出 張 先 岩手県盛岡市
- 3 出張期間 令和6年10月9日～令和6年10月10日
- 4 出張者氏名 反甫 旭
- 5 てん末報告 別紙の通り

第19回全国市議会議長会研究フォーラム（岩手県民会館）

10月9日(水)

【パネルディスカッション】

○テーマ

地方議会の課題と主権者教育

○コーディネーター

井柳美紀氏 静岡大学人文社会科学部法学科教授

○パネリスト

土山希美枝氏 法政大学法学部教授

越智大貴氏 一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事

渡辺嘉久氏 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

遠藤征幸氏 盛岡市議会議長

10月10日(木)

【課題討議】

○テーマ

主権者教育の取組報告

○コーディネーター

河村和徳氏 東北大学大学院情報科学研究科准教授

○事例報告者

白鳥敏明氏 伊那市議会前議長

諸岡覚氏 四日市市議会議員

服部香代氏 山鹿市議会議長





### 【考察】

今回のフォーラムの大きなテーマは主権者教育であった。少子高齢化が進む中で若者の投票率の低下は大きな課題であると日々感じている。私自身が若者と関わる中で政治に関心がないというわけではないが、身近ではないと考えている人が多いのではないかと感じる。ある程度、学校で主権者教育は行われていると思う。私が大学で受ける授業でも政治や行政に関わる科目は多かった。しかし、それが自分たちの暮らしとどのように関わっているのかつながらず、投票率の低下につながっているのではないかと思う。また、自分たちの投票行動で政治が変わらないと思っている人もいる。

今回、いくつかの取組事例を学ぶことができた。本市議会でもこども議会を計画しているが、こどもや若者が政治に触れあう機会を作ることは大切である。ただ、パネリストの土山教授の意見にもあったが、議会が主権者教育をどこまですべきかという考え方もある。私は議会として機会の提供は積極的にすべきであると思う。

最後に、若者にも自分たちの投票によって社会や政治を変えることができるということとそうあるべきだという意識になってもらえることが必要だと感じた。今後、主権者教育について考える際にその点を大切にしたいと思う。

以上